

# 芦田川

府 中 地 区  
介 護 支 援 専 門 員  
連 絡 協 議 会  
会 報 第 3 4 号

～がんばれ！ケアマネジャー～

## 石川県被災地支援を経験して 平門 ひとみ



令和6年1月1日、石川県能登半島に震度7の地震が発生。日本介護支援専門員協会は1月12日からボランティアの募集が開始しエントリー。1回目の活動は3月10日～13日の4日間。2回目は6月25日～27日の3日間。

1回目の派遣先は金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」に設置している1.5次避難所。この避難所は、1次避難所での生活が難しい高齢者や障がいのある方が避難している。

活動内容は、避難所にいる高齢者を施設や住居へのマッチング。滞在が長期化しているのが現状。次に繋がられない理由としては、身寄りがない、金銭的に難しい、施設の空きがないなど様々である。

ここでの介護支援専門員の役割は他の支援チームからの情報を収集し、再アセスメントを行う。県内や、近隣他県の福祉施設の空き状況を確認し、避難者の状態に合う施設とのマッチング作業を行う。一日に80～100件程度電話をかける。施設には元々地元の入所者がおり、簡単には受け入れ先も見つからない。

県外の自治体に相談し、空いている施設を探してもらう事もある。

2回目の派遣先は珠洲市。トレーラーハウスに事務所を構え、市や県から被災高齢者把握事業の依頼を受け、戸別訪問しアセスメントを行う。住宅地図を基に訪問するが、玄関が壊れている家が多く、表札がないので家が見つからず時間がかかる。一部損壊の家で避難せずに生活している方が多い。道路も隆起し、路地に入ると倒壊した家屋で通行できない道がほとんどであった。

被災した方に世帯の事や今後の事について確認するのは言葉を選び、難しさを感じた。心を閉ざしてしまっている方も多く、何度も訪問するケースもあり、状況把握には時間がかかった。

今回の経験で、改めて記録の大切さを学んだ。記録の基本である5W1H、完結明瞭である事。また、避難所で活動している他の支援団体は10余りあり、各団体との連携の難しさも経験した。職域を超えない事なども重要なポイントである。避難所では紙面でのやり取りとなるので、時間もかかり保管や共有の難しさや重要性を痛感。避難生活を送る高齢者の声を聴き、改めて介護支援専門員の重要性や専門性も理解できた。

知らない土地での初めての経験で、最初は戸惑いもあったが、全国各地から集まったケアマネとの交流もあり、今回の経験はとても貴重なものであった。

災害はいつ起こるか分からない。そのために準備は必要だが、災害を経験した事のない自分にとって今回の経験は想像する事の大切さを学ばせてもらう機会となった。想像できなければ準備も出来ない。

今、自分たちの周りで同じような災害が起きたらと想定し日頃からの備えを怠ってはいけないとも感じた。

## ～定例研修会(2024年7月16日開催)～ 北部地域包括支援センター 佐藤 美由紀

講師の平門ひとみさんは、二度訪問した被災地の様子や活動内容を話された。

参加者は、「全く土地勘のない場所で、自身の持つコミュニケーション力を最大限に生かし、他職種と連携された様子に、これぞアセスメント力だと感じた。」

「被災された方に寄り添い、自分ができることや立ち位置をしっかりと見極めること、誰が見ても分かるように、5W1H記録の必要性を感じた。」と感想を話されていた。

いつどこで起きてもおかしくない災害、その危機感を感じながら、日々の業務に励みたいと思います。



# 府中地区介護支援専門員連絡協議会 総会・記念講演会 (主任介護支援専門員更新研修の受講要件②に該当する研修) 府中地区医師会地域包括ケア推進事業 講演会 (在宅医療・介護連携推進事業)



2024年（令和6年）6月8日（土）に府中地区医師会と府中地区介護支援専門員連絡協議会の共催にて、川崎市立井田病院腫瘍内科部長/一般社団法人プラスケア代表理事 西 智弘先生をお招きし、「社会的処方～まちとつながりで人が元気になる方法～」の演題にて記念講演会して頂きました。

一般社団法人プラスケアを設立された経緯として、  
 がんと診断された時、社会や友人と切り離され、孤立する患者たちがいることに悩まれ、診療室や病院では解決できない課題について、『暮らしの保健室』を川崎市中原区に立ち上げられました。病院にいくほ

どでないちょっとした悩み、がんや認知症など大きな病気を抱えてどうやって生きていけばいいの？など病院では相談しにくい悩みを街中で気軽に相談でき繋がる場として、コミュニティナース（病院でも診療所でも保健所でもなく、働く場所は「あなたのそば」というナース）を中心に相談支援を行い、病気になっても安心して暮らせるまちの視点から取り組まれておられます。

孤立への処方箋＝「社会的処方」～薬で人を元気にするのではなく、人と地域のつながりで人を元気にする仕組み～について、社会的処方の効果として、孤独や社会的孤立の改善・不安や抑うつ  
 の軽減・自己効力感の向上などがあり、基本理念の「人間中心性 person-centeredness」「エンパ  
 ワメント empowerment」「共創 co-production」の視点と社会的処方の要（医療者と地域の社会  
 資源の橋渡し役）「リンクワーカー」の役割と機能  
 についてご説明をしていただきました。

「リンクワーカー」の大切な役割として、地域で孤立など課題を持たれている方に対して、さまざまな社会資源（サークル（趣味）活動や地域のサロン活動など）に繋げていくこと、また「リンクワーカー」（フォーマル・インフォーマル）同士も繋がり支援の輪を広げ、相互交流が大切であると教えて頂きました。

今後、日頃の取組の中で地域との関わりも多く、さまざまなインフォーマルなサービスを把握している介護支援専門員も「リンクワーカー」の機能を意識し、地域課題の支援や医療・介護・福祉・地域住民とのネットワークを構築していく事が大切であると考えます。



（福山市地域包括支援センター新市 角田堅吾）

## 「虐待および権利侵害の見極めの視点と対応について」 (2024年8月7日開催)

8月7日に主任介護支援専門員更新研修の受講要件②に該当する研修を行いました。研修の内容は、役員会議の中で「虐待が疑わしいと思っても、誰にどのように相談すればよいかわからない」という声があがり、主任介護支援専門員としてスムーズに対応ができるように勉強したいということで、「虐待」をテーマに選びました。今年度から、「居宅介護支援事業所の研修に積極的に取り入れる項目」にもあり、参加希望が多数ありました。また、施設ケアマネジャーの研修機会の確保のため、今回は施設ケアマネや施設の相談員さんにも参加をいただきました。

講師は大竹市で社会福祉事務所を運営されている松谷恵子先生にお願いし、先生がご多忙の中、オンライン形式で「虐待及び権利侵害の見極めの視点と対応」の講義をいただきました。前半は虐待のとらえ方と対応についての講義、後半は4人グループに分かれて、二つのワークを行いました。

研修後のアンケートでは、「いままでの段階で通報すればよいのかわからなかったが講義を聞いて納得できた」「ワークで使ったチェックリストを活用したい」という意見が多数あがりました。この研修で虐待に気付く力を養うことができ、今後の支援や新人ケアマネジャーへの指導に生かせる有意義な研修となりました。

(府中静和寮居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員 原田玉実)

### 令和6年度 府中地区介護支援専門員連絡協議会役員

会長： 内藤 賢一 (府中地区医師会 会長)  
府中地区ブロック ブロック長： 平門ひとみ  
副会長： 平門ひとみ (福山市北部地域包括支援センター)  
監事： 小林 正樹 (府中市介護保険課 課長)  
幹事： 藤岡 大助 (府中地区歯科医師会)  
信岡 紀邦 (ジョイトピアしんいち)  
事務局： 児玉 美春 (府中地区医師会)

#### <府中・上下地区 (◎地区長)>

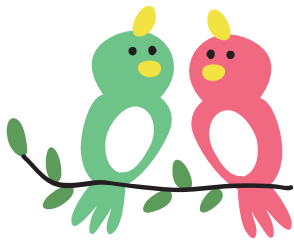
◎内海 美絵 (セイフティー信和居宅介護支援事業所)  
新井 教夫 (翁仁会居宅介護支援事業所)  
石口 由美 (府中市地域包括支援センター)  
内海佳寿美 (居宅介護支援事業所ゆうゆう高木) ←R6.4~  
小川 潤子 (介護老人福祉施設あいあい) ←R6.4~  
小川 征志 (ガーデンテラスふちゅう)  
武田 佳代 (府中地区医師会ふちゅう居宅介護支援事業所)  
只宗 寿美 (府中市民病院) ←R6.4~  
原田 志保 (府中市社会福祉協議会上下居宅介護支援事業所)  
原田 玉実 (居宅介護支援事業所府中静和寮)

#### <新市地区 (◎地区長)>

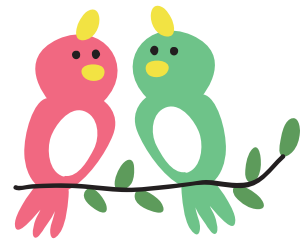
◎角田 堅吾 (福山市地域包括支援センター新市)  
池田 岸陽 (ジョイトピアしんいち)  
近藤 洋之 (居宅介護支援事業所リーフ新市) ←R6.4~  
佐藤 康人 (居宅介護支援事業所ゆうゆう)  
手島 香子 (居宅介護支援事業所ジョイトピアおおさ)  
中塚真奈美 (てらおか居宅介護支援事業所)

#### <駅家地区 (◎地区長)>

◎長谷川佳子 (福山市北部地域包括支援センター)  
石田 一至 (ホープ居宅介護支援事業所)  
植村 美香 (居宅介護支援事業所アリス福山北)  
佐藤美由紀 (福山市北部地域包括支援センター) ←R5.12~  
松本 美喜 (小島病院) ←R6.4~  
山田 昌宏 (備後の里居宅介護支援事業所) (昇順)  
※ 任期は2年(令和6年4月~令和8年4月)



ケ ア マ ネ	リ	レ	ー
	放	談	第18回



## 家族旅行

府中市地域包括支援センター  
藤原 由香



今年の4月、富山、福井、岐阜県に家族旅行に行きました。一番印象に残ったのは新穂高ロープウェイです。目の前に北アルプスの山々がせまって、白銀の山並みが見れて絶景でした。穂高の山頂では、多くの雪が残っており、家族で雪合戦や雪だるまを作り楽しみました。普段、雪をみるこ  
とがない子供たちは、自分の背より高く積もった雪に大興奮でした。山頂で食べるアイスやカレー、ラーメンもまた格別でした。

去年から、府中市地域包括支援センターでお世話になり、今年は介護支援専門員の資格も取得しました。まだまだ知識不足ですが、周りの方に教わりながら、またしっかりリフレッシュしながら精進していきたいと考えています。



## 【気分転換】

居宅介護支援事業所リーフ新市  
近藤 洋之

コロナ禍で始めた気分転換の一つ、散歩しながらの写真撮影もライフワークのように続いています。

秋になると、ケアマネ業務で外回りをしている中でも、道端の花や木々の彩りを楽しめるようになりますが、特に目に留まった場所には休みを利用してカメラを持っていき、その周辺も含めて散策すると良い気分転換になります。

自己満足ではありますが、思った以上に撮影できると嬉しいし、散歩で体も動かすことが出来るので、今後も続けたいと思います。



## スポーツとメンタル

居宅介護支援事業所こばたけ  
吉田 訓子

私の楽しみは高校生のテニス観戦です。ハツラツとした元気なプレーは見ている方も元気がもらえます。プレー中、緊張したり喜んだり悔しかったり色々な場面があります。

試合ではメンタルが大きく関係してきます。良いプレーが続き良い流れができる時、ミスで弱気になる時、乗り越えようとする気持ちに一喜一憂して一緒になって応援をしています。

楽しみを活力にして自分のモチベーションをあげ、気持ちの面でも皆さまの力になれるよう努力していきたいと思っています。

